

福島市(東北圏ブロック)

【計画期間 平成27年4月～32年3月】

- 江戸時代:養蚕業を基に生糸製品の集散地として商業が発展
- 明治以降:県庁、市役所をはじめ公共施設が集積、JR、新幹線、私鉄等、交通の結節点として発展
- ~ 現在 :人口約28万5千人、面積約768km²、豊かな自然環境と香り高い文化を有する県都として発展

【前期計画の概要】

○「ふくしまの個性と魅力を発信する生活都市づくり」をコンセプトに、集客拠点づくりと回遊環境の向上のため「賑わいの創出」と、人が暮らし交流できる生活環境の向上のため「快適居住の促進」を目標として取り組んだ。

(計画期間:平成22年3月～平成27年3月)

【中心市街地の変化】

○福島駅北側に位置する「MAXふくしま」やテナントミックス施設として整備した「パセナカMisse」等の完成、定住促進につながる都市福利施設の整備を行った。

○福島駅の南北を結ぶ回遊軸が形成され、拠点施設を結ぶ新たな賑わいが創出された。また、交通の流動強化として、道路整備をはじめとした交通基盤と自転車利用促進をはじめとした回遊環境の整備を行った。

○集客イベントの連携及び情報発信を行い、年間を通じて開催されるイベントや催しの連携で集客効果が表れた。

○一方、震災の影響により居住人口の大幅な流出が生じた。



震災からの力強い復興と併せ
まちなか再生を継続的かつ確実なものとする

【目指す中心市街地像】 ~ ふくしまの個性と魅力を発信する生活都市づくり ~

集客拠点づくりと回遊環境の向上

【主要項目】

- ①拠点施設の整備
- ②魅力の向上
- ③回遊環境の整備
- ④イベントの連携・情報発信
- ⑤まちなか観光の推進

【主要事業】

- 上町地区暮らし・にぎわい再生事業 (都市機能立地支援事業)
- 腰浜町庭坂線道路整備事業
- 栄町地区商業施設整備事業
- 福島駅前通りリニューアル整備事業 (修景まちづくり事業) など

人が暮らし交流できる生活環境の向上

【主要項目】

- ①居住の推進
- ②医療・福祉施設の整備
- ③交流環境の整備

【主要事業】

- 早稲町地区暮らし・にぎわい再生事業
- 八島町地区暮らし・にぎわい再生事業
- 五老内町地区暮らし・にぎわい再生事業
- 霞町地区暮らし・にぎわい再生事業
- 文化交流施設整備事業 (花の写真館) など

【前期計画の目標指標】

目標	指標	基準値 (H21)	目標値 (H26)	最新値 (H26)
集客拠点と回遊による賑わいの創出	歩行者・自転車通行量	33,276人/日	36,100人/日	34,918人/日
快適居住の促進	居住人口	15,417人	15,550人	14,840人



【新期計画の目標指標】

目標	指標	基準値 (H26)	目標値 (H31)
賑わいの創出	歩行者・自転車通行量	34,918人/日	35,970人/日
	新規出店舗数	22店舗	新規 25店舗
快適居住の促進	居住人口	16,750人	区域変更 16,820人
	文化・交流施設利用者数	2,330,327人/年 (H25)	新規 2,524,700人/年

